

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	ファミリーケア
事業所名	グループホームいまづ
所在地	松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	H22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 7 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族の方が安心して生活して頂くために、一人ひとりの変化について職員が情報を共有し細かいケアが行えるよう努めると共に、温かく家庭的な雰囲気与生活していただけるよう日々のケアを行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「温」を基本理念に掲げ、「目配り・気配り・心配り」を目標に定め、温もりがある生活が送れるよう支援に努めている。利用者は地域の敬老会や文化祭に出かけ、近くの小学校の運動会や幼稚園のひな祭りに出かけ楽しんでいる。また近くのスーパーや神社にも出かけ、地域住民と楽しく声をかけ合っている。主治医は週に1度、往診に訪ねてくれる。24時間体制で連携を取っている協力医があり、安心である。必要に応じて歯科医も往診に訪ねてくれ、健康管理には十分配慮されている。居室はテレビ、愛用の時計、お花、等が飾られ、居心地いい空間づくりがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	うめ
記入者(管理者)	
氏名	亀本知子
評価完了日	22年 7月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員一人ひとりが理念に沿った温かい介護の実現にむけて、日々のケアにあたっている。	
			(外部評価) 「温」を基本理念とし、「目配り・気配り・心配り」を目標に掲げ、温もりのある生活が送れるよう、支援に努めている。玄関と各ユニットに理念を掲げ、月1回の会議の中で全職員で共有しつつ、毎日のケアの中で実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天気のいい日には、近所のスーパーに散歩がてら買い物に出ている。近所の神社に散歩に行ったりしている。	
			(外部評価) 地域の敬老会や文化祭に出かけ、また近くの小学校の運動会や、幼稚園のひな祭りに招待されて楽しんでいる。幼稚園児がホームを訪れて遊戯を披露してくれることもある。地方祭には神輿が訪れる。神社の祭りや近くのスーパーに買い物に出かけた際には、地域住民と交流を深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居の問合せ時や電話での相談には、他の施設や、サービス等について説明をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的な開催が出来ていない。2ヶ月に1回の開催をめざしていきたい。	
			(外部評価) 会議は年間に1回しか開催されていない。地域住民からの意見や市の担当者からの助言は得ていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の実施する研修に参加したり、担当の方と話しをする機会もあり情報交換をしている。	
			(外部評価) 生活保護受給者について市の担当者が定期的にホームを訪れてくれるので、利用者の様子を十分伝え、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) その時の状況によって、鍵を掛けていることもあるが、声掛けやかかわりで落ち着くこともあり、職員も鍵をかけない工夫をしている。	
			(外部評価) 職員は利用者を与える身体的、精神的弊害を認識しているが、階段からの転落等の危険もあり、安全を最優先する観点から、昼間も玄関に施錠している。職員は各利用者の外出傾向を把握しており、外出を望んでいる様子を察知し、職員と一緒に外出して支援に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待には、言葉の暴力も含まれることを職員には意識付けして、みんなで考えるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、該当する方がいないが、機会があるごとに職員には説明し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、入院、退居、利用料金、医療連携加算、看取りについてのホームの方針等は時間をとって説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の様子などを報告し何でも言えるような関係作りをしている。 (外部評価) 家族が来訪した際には利用者の生活の様子を報告し、家族からの要望や意見を伝えてもらっている。来訪のできない家族には、請求書を送付する際に利用者の状況を知らせたり、電話で様子を伝えるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回ミーティングを行い、職員で話し合う機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを密にし、要望や不満を聞くようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員は日々コミュニケーションを図り何かあればその都度話し合っている。また月1回開催されるユニット会議で、意見を言うこともできる。代表者に職員が直接伝えることもでき、代表者も真摯に受け止めてくれる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 有休や、公休などできる限り職員の希望に添えるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 現状は、行えてないが、今後参加できる機会を設けていきたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 社協や包括が開催する研修などに参加している。年2回、西地区のグループホームが集まって、意見を交換できる場所がもっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 今までの生活史や現在の状況などの聞き取りを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に話し合いを行い充分な聞き取りをし、入居後すぐに暫定プランを作って対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問で伺った内容を元に、職員間で話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側、される側という観点はもたず、みんなで協力し共に生活していけるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日ごろの生活の様子を来訪時や電話や手紙等で報告し、相談しながらケアを行っていくことで、家族の方にも協力をしてもらえるよう働きかけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族が近所に暮らしている方もおり、面会も定期的に来てもらっている。近所の方や、知人の方の面会も定期的に来てもらっている。 (外部評価) 利用者の生活歴を家族に情報提供してもらったり、日々の生活の中で利用者から聞き取って馴染みの関係を継続できるように支援している。また、定期的に来訪する理美容師や近くのスーパー等の新しい馴染みの関係を構築する等、取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) おやつや食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむようにしている。仲の良い利用者の方同士で、居室の行き来等が見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した方の家族の方が、時々ホームに遊びに来てくれている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、表情や言葉から把握するよう努めている。 (外部評価) 一人ひとりと顔を合わせ、要望や思いを聴き取り、また入浴時のリラックスしている時のさりげない会話の中で、思いを聴き取ることが出来る。意思疎通の困難な利用者は、表情や行動の些細な変化からも、思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の時に、それまでの生活の様子を伺って、ホームに入ってから、それまでの生活に沿って日々の暮らしが出来るよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や状態に合わせて声かけを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の要望、家族の方の意向をふまえ、職員全員でカンファレンスを行っている。	
			(外部評価) 職員2名で利用者3名程度を担当し、計画案を作成し、ミーティングで職員全員が検討し合い、計画を作成する。状況に応じて主治医等関係者からのアドバイスを受けながら作成している。基本的には3か月に1度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化は、生活記録に記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の方の状況で通院の送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスを利用している。 運営推進会議には、民生委員の方や近所の方に参加いただき交流が出来るようになった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 今までに、かかっていた医療機関に引き続き通院して いる方もいるが、特に無い方は、3つの医療機関から 選択していただいている。</p> <p>(外部評価) 週に1回、利用者それぞれの主治医が往診してくれ る。24時間体制で連携をとっている協力医があり安 心である。必要に応じて歯科医も往診してくれる。通 院の場合は家族または職員で対応し、適正な医療を受 け、健康管理には十分配慮している。緊急マニュアル を作成している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職を配置している。毎日のバイタル測定を行い健 康状態や状態の変化などの支援を行えるようにしてい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成し、医療機関に提出して いる。入院後は、定期的にお見舞いに行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の方の意向を伺い、主治医の意見をふまえ た上で職員で話し合いを行い方針を考えている。</p> <p>(外部評価) 管理者は家族との連絡を密にとり、細かな報告や確認 を家族の意思を尊重しながら行っている。協力医も看 取りの時の話し合いに参加してくれたり、家族への説 明をしてくれる。職員に対しても、状況説明やそれに 合わせた勉強会も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救急法の勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて、年に2回、訓練を行っている。災害にそなえて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている。 (外部評価) 年間2回の避難訓練を夜間等の想定をして実施している。近隣のタクシー会社の協力を得て訓練をしたこともある。AEDの講習を職員が受講したり、代表者が地域の避難場所として事業所を提供することも考えている等災害に対する意識は高い。	地域の自主防災組織や近隣に協力をさらにお願ひし、実践的な訓練が行えるよう期待したい。水などは確保されているが、食料品等の備蓄品を備えておくことも望みたい。地震に備え家具の取り付けをしておくことが大切である。現在作成中のマニュアルを完成させホームの要所に備えておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) そのかたの気持ちを第一に考えられるよう、ホームの理念である「温」＝暖かいケアを目標に日々のケアにあっている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いについては、全職員で話し合い認識している。利用者に対しては、一人ひとりの尊厳を大切にし、さらに人生の先輩として優しく心をこめてケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いくつかの選択肢を用意し、その中から選んでもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、声かけをしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来てもらい、個人の希望で、カットやカラー、パーマなどあててもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭きなど、できることをしていただいている。	
			(外部評価) 職員は利用者と共に、スーパーに買物に出かけたり、状態に合わせて下膳等の手伝いをしてもらっている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気作りができています。外食に出かけ、楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は、声かけを行い、出来ない方は介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを職員が把握し、時間を見て、トイレの声かけやおむつ交換をおこなっている。	
			(外部評価) 職員は、一人ひとりの排泄パターンをチェックすることにより把握し、身体機能に応じて支援を行っている。トイレ誘導が必要な利用者については、周りに悟られないように配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バナナやヨーグルト、お芋、ごぼうなど繊維の多い食べ物の提供している。 水分量にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や入浴日の希望など聴くようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの体調や気分に合わせて、希望する時間帯に少なくとも週3回程度は入浴できるよう支援している。利用者の好みに合わせてお湯の温度をその都度調節し、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。羞恥心や恐怖心を与えないよう、利用者の心情には十分配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで居室で過ごされている。 昼夜逆転しないよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記入し、職員全員で共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、洗濯物など、動ける方が協力して行ってくれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のスーパーに、その日の体調や、天候の状態をみて、買い物に出掛けている。	
			(外部評価) 近くのスーパーに毎日食材の買いものに出かけたり、気候が良いときには近くの神社やお寺等に散歩している。また、幼稚園のひな祭りや運動会には招待を受け、楽しんでいる。外出もするが、車酔いをする利用者もいるため、利用者の状況に合わせて外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の了解のもと、自分でお金を管理されている方もいる。ホームで預かっている方も、買い物に出た際は、自分で精算してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方に手紙を書いたり、遠方の家族に連絡され近況を報告されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの電気は、明るすぎないよう、注意している。ホールの温度もその都度、寒くないか確認し、利用者の方の適温に合わせようとしている。	
			(外部評価) 居間は広く、採光、換気に気を配り、ゆったりと寛げる雰囲気である。観葉植物や可愛い小物を飾り、暖かい雰囲気である。安定した座りやすいソファが置いてあり、ゆったりと寛げる場所がある。冬には床暖房を使用し快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアーに2ヶ所ソファを置き、仲の良い利用者で過ごせるようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇や棚、テレビなど、思い思いのものを持ち込まれている。	
			(外部評価) 居室は明るく、ベッド、タンス、クローゼットはホームに備えており、整理整頓ができる。利用者はテレビ、愛用の時計などを置き、お花、思い出の写真、小物などを飾り居心地よく過ごせている。神棚、ご仏壇を置いて、心が安らぐようにしている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり、目印をつけるなどしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	ファミリーケア
事業所名	グループホーム いまづ
所在地	松山市西埴生町1184-6
自己評価作成日	平成34年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 7 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方に気軽に訪れてもらえるホームになるようにしたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「温」を基本理念に掲げ、「目配り・気配り・心配り」を目標に定め、温もりがある生活が送れるよう支援に努めている。利用者は地域の敬老会や文化祭に出かけ、近くの小学校の運動会や幼稚園のひな祭りに出かけ楽しんでいる。また近くのスーパーや神社にも出かけ、地域住民と楽しく声をかけ合っている。主治医は週に1度、往診に訪ねてくれる。24時間体制で連携を取っている協力医があり、安心である。必要に応じて歯科医も往診に訪ねてくれ、健康管理には十分配慮されている。居室はテレビ、愛用の時計、お花、等が飾られ、居心地いい空間づくりがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケア殖生 グループホームいまづ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 藤川 洋子

評価完了日 22 年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 温を基本に3個の配りを入れているが理念についての意見交換を取り入れ検討していきたい。</p> <p>(外部評価) 「温」を基本理念とし、「目配り・気配り・心配り」を目標に掲げ、温もりのある生活が送れるよう、支援に努めている。玄関と各ユニットに理念を掲げ、月1回の会議の中で全職員で共有しつつ、毎日のケアの中で実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の幼稚園から園児の行事の招待を受け参加したり、近所のスーパーに買い物に行くなどしている。顔みしりの方から声をかけてもらうなどしている。</p> <p>(外部評価) 地域の敬老会や文化祭に出かけ、また近くの小学校の運動会や、幼稚園のひな祭りに招待されて楽しんでいる。幼稚園児がホームを訪れて遊戯を披露してくれることもある。地方祭には神輿が訪れる。神社の祭りや近くのスーパーに買い物に出かけた際には、地域住民と交流を深めるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 実習生を受け入れている。認知症の方と接したことはない方もおり、利用者が混乱しないように配慮し、認知症のことを理解してもらえるように研修してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 議題としてホームからの報告が主になり、その件に関する意見は話合うことができている。参加してもらう方を、今後検討し職員や家族さんもどンドン参加していただけるよう取りくんでいきたい。	
			(外部評価) 会議は年間に1回しか開催されていない。地域住民からの意見や市の担当者からの助言は得ていない。	会議は概ね2か月に1度開催し、地域のさまざまな立場の人に出席をお願いし、運営推進会議の意義を理解していただき、更に出席者から意見を十分聞き取り、ケアの向上に生かすことが求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課や社協が行う研修に参加している。担当の方と話し情報を得ている。運営推進会議にも参加してもらっている。	
			(外部評価) 生活保護受給者について市の担当者が定期的にホームに訪れてくれるので、利用者の様子を十分伝え、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベットの柵は安全のため使用している。状況により鍵をかけることもあるが、本人の思いを聞き納得してもらえるように声かけし、関わりをしている。	
			(外部評価) 職員は利用者には与える身体的、精神的弊害を認識しているが、階段からの転落等の危険もあり、安全を最優先する観点から、昼間も玄関に施錠している。職員は各利用者の外出傾向を把握しており、外出を望んでいる様子を察知し、職員と一緒に外出して支援に当たっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待といえれば身体的虐待を思い浮かべるが、どのようなことが虐待となるのか話し合いを持ち、みんなで考えていかねばならない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今のところ該当する方がなく過ごしているが、今後にも備え職員が知識をもつようにしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず双方で一部ずつ持ち、目を通しながら確認し、説明している。ホームで対応出来ること出来ないこと、主治医も家族の要望を聞き納得の上で契約を結んでいる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に本人さんの様子を話すことが多く、ホームでの生活の様子を伝え、要望を聞いたり意見をもらうことができ、関わりに活かすことができている。面会の少ない家族さんがホームに来てもらうようにするのが課題である。 (外部評価) 家族が来訪した際には利用者の生活の様子を報告し、家族からの要望や意見を伝えてもらっている。来訪のできない家族には、請求書を送付する際に利用者の状況を知らせたり、電話で様子を伝えるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員に関する事業所からの伝達等は、申し送り時に報告するなどしている。職員の意見や要望は、会議の時伝えたり総務に伝えたりし回答を伝えている。 (外部評価) 管理者と職員は日々コミュニケーションを図り何かあればその都度話し合っている。また月1回開催されるユニット会議で、意見を言うこともできる。代表者に職員が直接伝えることもでき、代表者も真摯に受け止めてくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有給や公休など可能な限り本人の希望を聞いている。また就業規則もあり、健康診断も年に一度会社負担で行っている。職員も自分の資格修得のための向上心を持っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が研修に参加する機会がないのが現状だが、少しずつ参加できる機会を設けていきたい。キャラバンメイトの研修参加者でホームでの研修がおこなえるようにしたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社協や包括での研修に参加したり、他のホームの運営推進会議に参加し参考にしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の相談があれば本人さんの身体レベルや行動の様子を詳しく聞き、関わる職員に伝えている。入居後は関わりながら本人さんの思いに向き合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までの家族さんと本人さんの係わりの様子を、フェイスシートに記入してもらい参考にし、家族さんの思いを聞きながらよい関係が保てるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時、家族さんの要望や思いを聞き本人さんが落ち着いて生活できるように出来ることはし、出来ないことはどうすればいいかなど職員ではなしあっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来そうな事は小さなことでもお願いしたり、一緒にするなどし感謝の言葉を添えている。話しを聞いたりしながら本人さんの思いを理解し、よりよい関係を作るようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人さんの様子を伝えるのは面会時が多く、よく来られる方は職員も顔なじみになりよい関係ができてい る。 面会の少ない方や来れない方の交流の方法を考えていきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の家族さんが近所の方もおり、よく面会に来られ他の入居者とも顔なじみになっている。退去された家族の方が訪ねてくれたりもしている。デイサービス利用からの入居の方などはデイの帰りに面会によってくれたりもしている。 (外部評価) 利用者の生活歴を家族に情報提供してもらったり、日々の生活の中で利用者から聞き取って馴染みの関係を継続できるように支援している。また、定期的に来訪する理美容師や近くのスーパー等の新しい馴染みの関係を構築する等、取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の個性を大切にし、共に助け合い楽しく暮らせるように支援している。利用者同士の関係を理解し、見守りをしながら同じ時間を大切に過ごすように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された方の家族さんが時々訪ねてくれることもある。他の施設に移られた方は、相談員の方とよく話し合い今後もよい関係を築くことができている。他施設入居後に面会に行き本人さんの笑顔を見ることができた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の思いや希望を尊重しその方に合った関わりを持つようにしている。日々の関わりの中から利用者一人一人の表情、行動の把握をし本人の視点に立つように心がけている。 (外部評価) 一人ひとりと顔を合わせ、要望や思いを聴き取り、また入浴時のリラックスしている時のさりげない会話の中で、思いを聴き取ることが出来る。意思疎通の困難な利用者は、表情や行動の些細な変化からも、思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者本人が自分らしく生活していけるように、その方の話しをよく聞き理解することや、知人や家族さんの面会時に今までの話しを聞いたりしながら、双方の信頼い関係を築き支援出来るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の体調の変化に注意し、本人の出来ること出来ないことを理解し支援していくようにしている。一人一人の一日の生活の流れを把握し、状況に合わせた支援を職員全員で行うように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者個人に合った介護計画を、職員皆で話し合う機会を増やし意見の交換をしていきたい。家族さんの思いも面会時などに聞くことができている。	
			(外部評価) 職員2名で利用者3名程度を担当し、計画案を作成し、ミーティングで職員全員が検討し合い、計画を作成する。状況に応じて主治医等関係者からのアドバイスを受けながら作成している。基本的には3か月に1度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録に身体の状態の変化や、本人の言葉、日常生活の様子を記入している。生活ノートには、全員の一日の様子を記入している。個別に食事、排泄、バイタルも記入し、朝夕の申し送り時に必ず確認し変化のある時は対応を話し合っている。また、それらを参考に介護計画の見直しに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者個人の状況に応じ、受診時の対応などを行っている。家族さんとも話し合える機会や、相談できる場所を提供し、できる範囲内で対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員の方や地域包括、介護保険課の方に参加してもらっている。訪問美容サービスも利用者の楽しみとなっている。近くのスーパーへの買い物では近所の方に声をかけてもらったりすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居時にホームで往診可能な病院の話しをし、家族さ んの選択により、かかりつけ医を決めてもらっている。 入居前からかかっている主治医の往診を受けてい る方もおり、定期的に往診を受けている。往診時体調 の変化があれば相談している。受診が必要な場合は、 家族さんに連絡するとともに状況に応じてホームで対 応している。</p> <p>(外部評価) 週に1回、利用者それぞれの主治医が往診してくれ る。24時間体制で連携をとっている協力医があり安 心である。必要に応じて歯科医も往診してくれる。通 院の場合は家族または職員で対応し、適正な医療を受 け、健康管理には十分配慮している。緊急マニュアル を作成している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日中、夜間の状態を確認し、その都度申し送り記録で 職員に伝えている。変化が見られる場合には、看護職 に連絡、相談し内容を主治医に伝え指示を仰ぐなど連 携をとるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は医師の診療情報、ホームのサマリーの提出を し、家族さんと連絡を取りながら面会に行くなど し、本人さんの状態を職員に伝えている。入院先の相 談員の方と連絡を取りながら係わっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療機関、主治医、家族、本人、職員と十分に話し合 い、本人さんにとって良い手段が見つかるように対応 している。ホームで対応できること出来ないことも伝 え、医療機関との連携を大切に、チームケアにて支 援出来るように努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は家族との連絡を密にとり、細かな報告や確認 を家族の意思を尊重しながら行っている。協力医も看 取りの時の話し合いに参加してくれたり、家族への説 明をしてくれる。職員に対しても、状況説明やそれに 合わせた勉強会も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期の研修は今年度行われていないが、利用者の状態に変化のあるごとに職員間で話合っている。急変や事故に対応できるように実践力を身につけられるよう、今後も研修の機会を設け技術の習得をしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間を想定した火災訓練利用者を交えて行っている。設備点検も定期的に業者の方にもしてもらっている。災害に備え必要備品もリストを作るなどしている。 (外部評価) 年間2回の避難訓練を夜間等の想定をして実施している。近隣のタクシー会社の協力を得て訓練をしたこともある。AEDの講習を職員が受講したり、代表者が地域の避難場所として事業所を提供することも考えている等災害に対する意識は高い。	地域の自主防災組織や近隣に協力をさらにお願ひし、実践的な訓練が行えるよう期待したい。水などは確保されているが、食料品等の備蓄品を備えておくことも望みたい。地震に備え家具の取り付けをしておくことが大切である。現在作成中のマニュアルを完成させホームの要所に備えておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室で過ごしている時は、必ず合図をし声かけしている。排泄介助はさりげない声かけを行い、プライバシーを保つようにしている。利用者と向き合いゆっくり話すように心掛けている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いについては、全職員で話し合い認識している。利用者に対しては、一人ひとりの尊厳を大切にし、さらに人生の先輩として優しく心をこめてケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 耳の聞こえにくい方は、話の途中で筆談を用いたりうまく聞きとれない方は、ゆっくり話してもらうなどしながら思いや希望を聞いている。どうする、と問いかけながら自分で答えられるような係わりをもつようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スケジュールや日課にあてはめることなく、その方のペースを大切にしている。居室で過ごすことの多い方には、間食時や食事の声かけを兼ねて様子を見ている。体調を見ながら用事を頼むなどし、できることをしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に訪問美容室を利用し、本人の希望に合わせた髪型にしている。自分で更衣できる方は好みの服を着ている。着方のおかしい時などは、さりげなく声かけし直している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事のための買い物や、下ごしらえをしてもらうなどしている。さりげなく食材を持っていくと、上手に下ごしらえをされている。料理の匂いが漂いおながかすいたの声も聞こえる。食後は自分の食器を下げることも、各自にってもらうようにしている。 (外部評価) 職員は利用者と共に、スーパーに買物に出かけたり、状態に合わせて下膳等の手伝いをしてもらっている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気作りができています。外食に出かけ、楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) カロリーの過不足や栄養の偏りがないように、利用者それぞれの方の食事量を職員が話し合い、把握している。その方の食べやすい形態にするなどし、残さず食べてもらうようにしているが、嫌いと残されることもある。水分摂取量は特に注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人の習慣やできる事できなくなった事を把握し、個別に声かけを行い、歯磨き義歯の手入れ、うがいなどの支援をしている。義歯の方は、夕食後は外しもらい義歯洗浄剤につけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 見ることによってトイレを認識できる方がいるので、使用していないときはトイレのドアを開けておくことで、自分でトイレに行くことができている。利用者の排泄のパターンを職員が把握し、行動の様子を見ながら声かけや誘導を行いトイレで排泄できるよう係わっている。紙パンツ類も本人やその時の状況に応じた使用をしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、一人ひとりの排泄パターンをチェックすることにより把握し、身体機能に応じて支援を行っている。トイレ誘導が必要な利用者については、周りに悟られないように配慮がなされている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分量や排便の間隔などを記録し、利用者に合わせ飲み物を工夫するなどしている。常に体調の変化に注意している。間隔を見ながら内服薬に頼ることもあるが、様子を見てトイレで排泄できるように内服の時間や量を職員間で話し合っている。また水分量や食事も常に気にかけて話合っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 一人一人の希望を大切に、確認しながら声かけをしている。入浴を拒む方には無理強いせず、意欲に合わせた対応支援をしている。順番を考慮するなどの工夫をし、個々に沿った支援をしている。利用者の方の状況に合わせた見守り介助をしている。</p> <p>(外部評価) 一人ひとりの体調や気分に合わせて、希望する時間帯に少なくとも週3回程度は入浴できるよう支援している。利用者の好みに合わせてお湯の温度をその都度調節し、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。羞恥心や恐怖心を与えないよう、利用者の心情には十分配慮されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者一人一人が必要な休息睡眠がとれるような環境作りを心がけ、本人の体調や希望に考慮しながら総合的に支援するようにしている。夜間の睡眠の様子を申し送りその日の活動の参考にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにし保管し変更があった場合は必ずもうし送ることとし薬箱にも記載するなどしている内服薬については職員間で意見交換し日常の様子を主治医に伝え指示を仰いでいる。内服薬は利用者の手に触れないように職員が管理し服薬確認も必ずしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の自主性を促し、状況に応じた声かけをしながらその方に合った環境を作り、物事を始めていけるように支援している。利用者さん達がお互いを通じて新しいもの事に参加できるような環境を提供できるように努めている。小さなことでもお願いし感謝の言葉を添えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の利用者の体調や天候に配慮し、状況に応じて対応している。近所のスーパーへの買い物や散歩などは、車いすやシルバーカーを使用し出かけている。家族の方と外出の機会がもてるように働きかけたり、ホームでの外出に気が進まない方は、美容院や買い物に家族さんと行くことで触れ合いと外出を兼ねている。 (外部評価) 近くのスーパーに毎日食材の買いものに出かけたり、気候が良いときには近くの神社やお寺等に散歩している。また、幼稚園のひな祭りや運動会には招待を受け、楽しんでいる。外出もするが、車酔いをする利用者もいるため、利用者の状況に合わせて外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時、家族の方に承諾を得て、おこづかいとしてホームで預かっている。買い物に出かけるときなどに本人さんと相談し持ってもらう。支払いは、代行する時もあるが状況に応じて本人さんに支払ってもらうこともある。管理はできないが、お金のことを気にする方には家族の方から預かっているからと話すことで安心される。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やはがきが届いた時には、本人さんに手渡すとともにその都度、会話の糸口とし思い出を聞いたりし、生活歴の把握に努めている。利用者の様子や要望を電話で伝えている。電話の制限はしておらず、本人さんのプライバシーはを保つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせ窓の開閉や加湿器を使用し、換気に気を配っている。冷暖房使用時も温度設定、タイマーで対応している。朝日の強い時期などはカーテンを使用し反射を防ぐ。TVの音量も適切に常に気にしている。ホールに季節の物を飾り会話の糸口としている。	
			(外部評価) 居間は広く、採光、換気に気を配り、ゆったりと寛げる雰囲気である。観葉植物や可愛い小物を飾り、暖かい雰囲気である。安定した座りやすいソファが置いてあり、ゆったりと寛げる場所がある。冬には床暖房を使用し快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファとテーブルが2対あり、離れた場所に置いている。御夫婦で入居されている方や、他の利用者が仲良く会話されたりしている。もう一方では作業をしたり、横になって休んだり思い思いに過ごされている。また本人さん持ち込みの籐いすに座り、テレビを見て寛がれている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 手作りの作品、家族さんやお孫さんの写真などを飾ったり、自分のお部屋で好きな番組を見たりされている。 居室の中も本人さんの好きなようにしてもらい落ち着いて過ごしていただけるように対応している。	
			(外部評価) 居室は明るく、ベッド、ダンス、クローゼットはホームに備えており、整理整頓ができる。利用者はテレビ、愛用の時計などを置き、お花、思い出の写真、小物などを飾り居心地よく過ごせている。神棚、ご仏壇を置いて、心が安らぐようにしている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 表札代わりに色画用紙に、大きく名前を書きドアに貼っている。トイレも場所が分かるように目の高さの入り口柱に取り付けている。使用していない時はドアを開け、見ればわかるようにしている。利用者の個々の状況に合わせ声かけや周りの環境を考えている。	